

子供の生きぬく力を育む、 学習支援・図書ボランティア活動

山形県川西町

活動名

玉庭地区学校支援地域本部

関係する学校

玉庭小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	2人	33人	20年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	1人	12人	230日	有	有	無	無
	コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		川西町立玉庭小学校			21年度	連携なし		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
		平成26年5月1日			14人	33人	4学級	

活動の概要・経緯

玉庭地区では、平成20年度に文部科学省の委託事業である「学校支援地域本部事業」への取組を開始し、今年度で8年目を迎えている。学校と地域のパイプ役としての「地域コーディネーター」が2名配置され、学校側のニーズを的確に把握しコーディネートするとともに、玉庭地区交流センターと連携し地域住民のニーズも踏まえた事業を展開している。玉庭地区は自然環境に恵まれた中山間地の農村集落である。世帯数282戸で小学校の児童数は33名である。当地区には、教員を退職した方や専門的知識・技能を持っている地域住民が多く、本事業が始まる前から「玉庭の子供は、おらほ（自分たち）で育てる」という気運が高く、地域住民と一体となった教育活動を展開していた。ただ、学習環境の一層の整備の必要性やクマの出没問題における見守り活動の強化、小規模校ゆへの教職員の不足も近年課題になっていた。そのような中、本事業がスタートして、学校中心に行ってきた地域との連携活動を地域コーディネーターが中心に再構築し、地域のボランティアを募り、地域住民の専門的知識・技能を生かして各活動が有機的に機能するようになってきた。平成26年5月にコミュニティ・スクールの指定を受け、本事業のコーディネーターも学校運営協議会の委員となり、地域の支援により学校の教育活動をより豊かなものにするための活動を推進している。

特徴

【特徴的な活動内容】

専門的知識・技能を持つ地域住民の「伝えたい」「教えたい」という願いと、学校側の「専門的な授業を行いたい」というニーズをマッチングさせた「学習支援活動」が特徴である。退職教員5名に依頼をし、通年で算数の指導、外国語活動（英語）や音楽の授業の支援を行っている。また、児童に豊かな体験をさせることは、学力向上の基礎を養うとともに豊かな情操を育むことになるため、食農教育や道徳教育でボランティアティーチャーの授業を行っている。近年は、「稲作（一反）・畑作（里芋・ねぎなど）」の食農活動、花の栽培（ダリヤ）、「和太鼓」の伝承活動に力を入れている。図書ボランティアを定期的実施することによって、蔵書整理や図書選定を効果的に行い、利用しやすい図書館づくりを行っている。また、読み聞かせボランティアによる読み聞かせや、民話の語りも行っている。「玉庭あんしん隊」の安全見守りは、交通事故や不審者から児童を守る活動として発足し、年間を通して活動している。近年、クマが出没していることから、その安全対策として「玉庭あんしん隊」の役割が大きくなっている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターが校長をはじめとして教職員とコミュニケーションを図り、学習支援におけるニーズの把握に努めている。また、地区の交流センターに通い、ボランティア活動を求めている人材等の情報を収集している。さらに支援する授業のねらいを踏まえて、「どの時間に」「どんな支援」をしていくかを担任と詳細な打合せを行うとともに、授業者・ボランティアの声を聞き、成果や課題を次の学校支援活動に生かすようにしている。

事業を実施して

- ・学校の教育活動が多岐にわたり教職員の多忙化が著しい中、「図書ボランティア」や「環境整備ボランティア」の存在は大きい。日常的に教職員が学習指導・生徒指導に専念できる環境を整えてくれている。
- ・教職員は地域に支えられているという安心感の中で教育活動を展開している。
- ・児童にとって、専門的な知識技能をもとにした学習支援を受けられることは豊かな体験、学力の基礎づくりにつながり、地域の方々の生きがいともなっている。
- ・小規模校という特性を生かして、地区の交流センターと全面的に連携し、コーディネーターを中心に学校を核とした地域づくりの一端を本事業が担っている。



複式指導の学習支援



音楽の学習支援